

■ 基盤教育科目

初期導入科目 >

◎ 「新入生セミナー」

概要

大学生活を送るうえで必要とされる、自主的かつ自律的な態度および学習の進め方を学ぶことができるように企画された科目である。

達成目標

高校とは、様々な点で異なる大学において有意義な学生生活を送ることができるよう、次に掲げる全学部共通の目標とともに、専門分野に関する基礎的な理解など学部・学科等ごとに定める必要な事項を修得する。

- ・日々の生活や学習における自己管理，時間管理ができるようになる。
- ・大学という場を理解するとともに，学習を進めるうえで必要な知識，技能を身につける。
- ・将来的なキャリア形成を見通しながら自己を認識し，それぞれの専門分野とつながりのある職業について学ぶことで，今後4年間の過ごし方について考え始める。

カリキュラムの方針

新入生を大学における学習全体へと導く役割を担う必修科目である。以下の構成をガイドラインとしながらも，その具体的な内容については専攻する学問領域の性質を考慮した学部・学科等ごとに相応しい事柄を，各教員の大学観・学問観を反映させながら教授する。

- ・「知ること」
大学という場および自らが属する学問領域の広がりを知るとともに，生活態度や文献の探し方などについて学ぶ。
- ・「書くこと」
日本語の表現に敏感になること，ノートの取り方，レポートのまとめ方などを習得する。
- ・「話すこと」
プレゼンテーション（他者に対して分かりやすく発表すること）のやり方，ディスカッション（集団での討論）の進め方などを学び，コミュニケーション能力の向上を図る。
- ・「考えること」
科学的・論理的な思考法などを身に付ける。
- ・「キャリアデザイン」
専門分野にかかわる職業・働き方や自己についての理解を深めるとともに，自らのキャリアプランを意識しながら綿密な履修計画を立てる契機とする。

◎「スポーツと健康」

概要

在学中および卒業後の豊かなライフスタイルを形成できる心身の基盤を養う。

達成目標

人間力の育成として、身体・体力面（自己コントロール、適応力、耐性、自律性、達成感など）とともに社会・対人関係面（共感力、リーダーシップ、協調性、連帯感、コミュニケーションなど）における能力の向上を図る。

カリキュラムの方針

1年次対象科目として、複数教員が6運動種目（ソフトボール、バレーボール、テニス、サッカー、卓球、フライングディスク）を担当する。一般的に普及している集団的スポーツと個人的スポーツで構成し、その中に軽スポーツ的な内容（卓球およびフライングディスク）を配して学生のニーズに応えられるようにしている。学生は、希望によって分けられたグループ（種目）ごとに受講する。週1回の授業の中で、自己の体力および心身の健康への認識を深め、それぞれの運動種目の基礎技能並びに基本的知識（戦術、ルール、マナー、審判など）を修得するなど個人的な能力の開発をめざす。また、ゲームを多く体験することで、運動する楽しさ、ストレス発散、技能の向上をねらうとともにチームワークを高め、試合運営について熟知できるようにする。一方、グループを定期的に変えることで、様々な人達と接する機会を増やししながら、グループ間での学び合い、経験者による初心者指導、器具・用具の準備・片付け等における協働作業など、社会・対人関係力の形成に努める。また、それぞれの学生のレベルに応じたプログラムを同時に実施することで、運動する楽しさや意欲的な学習への動機づけを行う。

以上のカリキュラムによって、履修した運動種目の知識、技能の基本的な能力の修得を通し心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基盤を養成することを目指す。

◎「情報処理基礎」

概要

すべての学生が共通的に持つべき情報リテラシーの修得を図る目的で企画された必修科目である。具体的には、オフィス系ソフトウェア、ウェブ、電子メールの標準的な使い方とそれらの間の有機的連携方法、ハードウェアの基本的な使い方、情報倫理、総合メディア基盤センターのコンピュータおよびネットワーク環境について、講義と実習を併用した形式で学習する。

達成目標

情報化社会を賢明に生きるとともに、専門分野でリーダーシップを発揮するためには、情報の検索、交換、表現や分析等の利用技術に通じること、とりわけインターネットなどの高度情報ネットワークを効果的に活用する能力が必要になる。また、情報犯罪から身を守るため、そして知らずして社会に迷惑を与えてしまうことが起きないよう情報化社会の光と陰の両面を理解し、基本的な情報倫理や情報セキュリティに関する知識を身につける必要がある。

本授業では、情報化社会で必要不可欠とされる情報リテラシー（情報および情報手段を主体的に選択し活用していくための基礎的な能力）を学び、情報活用の実践力を養い、情報の科学的理解を深め、情報社会に創造的に参画する素養を修得することを目標とする。

カリキュラムの方針

すべての学生が共通的に修得すべき内容を中心に、学問領域の性質を考慮し、学部・学科等ごとに相応しい事項を反映させた編成とする。

◎基盤教育英語科目 (EPUU)

概要

基盤教育の一環として、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養い、地球的な視野を持った 21 世紀型市民の育成を目指す。

達成目標

「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の 4 技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力を高めるとともに、文化的背景に関する知識をも身につけさせることにより、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力を養成する。

カリキュラムの方針

1 年次対象科目として、日本人教員による「Integrated English I A」(前期週 2 回)、「Integrated English II A」(後期週 2 回)、外国人教員による「Integrated English I B」(前期週 1 回)、「Integrated English II B」(後期週 1 回)を開設している。2 年次対象科目としては、前・後期それぞれ、skills 別に 14 種類の「Advanced English I」を開設しており、その中から前期 1 科目(週 1 回)、後期 1 科目(週 1 回)を、選択必修として履修させる。更に 3、4 年次対象の選択科目として、「Advanced English II」、「Advanced English III」を開設している。

「Integrated English A」においては、Study Skills の養成後、Oral Communication と Reading を主とした 4skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を図る。「Integrated English B」においては、Oral Communication と Writing を主とした 4skills の育成を図る。「Advanced English I」、「Advanced English II」、「Advanced English III」の各クラスにおいては、1 年次で修得した基本的な英語運用能力を基に、特定の skill に焦点をあてた英語力の育成を図る。個々の学生が自己の興味や必要に応じて、学習対象 skill を選択する。

習熟度に対応した英語力養成を徹底し、そのために、入学時、1 年終了時、2 年終了時の計 3 回、全員に TOEIC を受験させる。1 年次生を 4 ないし 5 レベルの、2 年次生を 2 レベルの習熟度別クラスに分ける。ことに、習熟度の高い学生の英語力育成には力を入れており、入学時 TOEIC650 点以上を取得した学生 Honors Student は、通常学生と異なる Honors Program 即ち「英語優等生プログラム」を、4 年間にわたり履修可能である。

以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソン」の平均的英語力以上に到達する学生が、全学生の 50%以上になることを目指す。

